

文書名	筑前筑後肥前肥後探索書 No.
所蔵者 住所・氏名	九州大学中央図書館
撮影年月日	昭和56年 7月 15日
福岡県文化会館	

九州史料叢書

筑前筑後肥前肥後探索書

九州史料刊行會編

6

620
f
2.

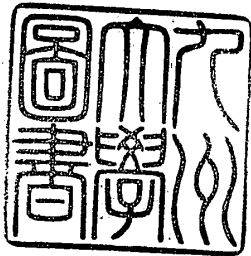
620
f
2

九州史料叢書

筑前筑後肥前肥後探索書

九州史料刊行會編

九州史料刊行會 寄贈



知行の辞

最近各地方において、それそれの史料古文書刊行の気運が昂つてゐる。わが九州地方においても、大分縣・佐賀縣などにおいて、史料の刊行事業がすゝめられて、学界に多大の貢献と期待を与えてゐる。

元來、九州の地が、わが國史上に占める重要さは、今更申すまでもないが、その現存する史料についても、その莫・量共に全國の他地方に比べて、その一二を争ふほどの考えられる。にも拘はらず、その地が中央とはなれてゐるためにその多くが未刊であり、或は少数の写本のみによつて伝へられ、或は抄本のみ世に流布し、或は全く埋れて、学界の利用に多大の不便を与えてゐる。

わが九州大学においては、國史上における九州の重要性とその史料の存在状況とに鑑み、既に数十年前より、九州文化史研究所を設けて、史料の蒐集を行ひ、研究の利便をはかつて来たが、こゝにわ

れり有志相はかつて『九州史料叢書』を刊行しようとするのヒ、全く同じ意図を以つたのである。

この叢書は、九州地区に関するもので、而して全国学界に不可欠と考えられる史料をえらび、それぞれその研究者に校訂等を依頼し、逐次刊行しようとするものである。

大方の御支援を御願ひ致す次第である。

昭和三十年正月 日

九州史料刊行会

(九州大学九州文化史研究所内)

竹内理三
箭内健次
秀村選三

凡例

- 一 コノ探索書ハ九州大学九州文化史研究所蔵本ニヨツタ。原本ハ滋賀県甲賀郡水口町水口図書館ニアリ。同町ノ河井廣治氏ガ同図書館ニ寄託サレタモノデアル。
- 一 本書ノ成立年代ハ、記載内容カラ寛永四年三、四月ト比定サレル。
- 一 本書ニ記載サレタ内容ニヨツテ江戸初期ニオケル幕府ノ取締ノ対象ガ何處ニアツタカガ分リ、又当時ノ社会ノ一端ガウカマハレテ興味深イモノガアル。コノ様ナ探索書ハ全国ニ亘ツテ作ラレタモノデアロウ。
- 一 本書ノ題名ト記載サレタ巻トハ必ズシモ一致シテイナイ。例エバ中津、小倉并題名ニナイ豊前國ガ入ツテオリ、肥後國ハ脱落シタタメカ記載サレテイナイ。
- 一 本書ニ探索サレテイル諸藩ハ中津、小倉、秋月、福岡、久留米、柳河、佐賀、唐津、平戸、長崎(天領)、大村、嶋原等デアル。
- 一 本文中()内ノ記載及頭注ハ校訂者ガ加エタモノデアル。

一 最後ニ所載地名ノ現在町村名ヲ掲載シ参考ニ供シタ。尚比定出未ナイノ
モ若干アリ。御教示ヲ得レバ幸イデアル。
一 本書ノ校訂ハ九州大学三不俊・桑波田典デアル。

(表紙)

筑前
福岡
筑後
久留米
柳川
肥前
佐賀
唐津
平戸
大村
嶋原
肥後
熊

中津十六里
山形越八里
中津城(中津)
中津(中津)
中津(中津)

一本丸の廣さ廿十四方
一堀之廣さ北の方十四間東南の堀
一矢倉敷十一内二重の矢倉敷つ有口東へ巻つ南
北の方三町十間南の方三町

一矢倉敷北東南三方八つ指
一町の北の方の廣さ廿九町かまへ四角御座候とて西南東ハ竹

高瀬川

かりてめの橋

町家敷

の西高瀬川と云水の面敷町斗の川也此川是り上々本丸の御取被成候
此川去江道橋無御座候へ共去年十二月橋かゝり申由申候今迄ハ舟渡り也
此橋ハ兩戸水なき分州間程くり石而筑出し候中ハ就間程つゝ間置こく致
さしくり石而つめ石舟板を枚渡り候も有就枚渡り有七、三尺程メカ
つらよてむせひ付水出時ハ取てなし様かりてめの橋せ小倉へ之海道な
り
一町の家十程御座由

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

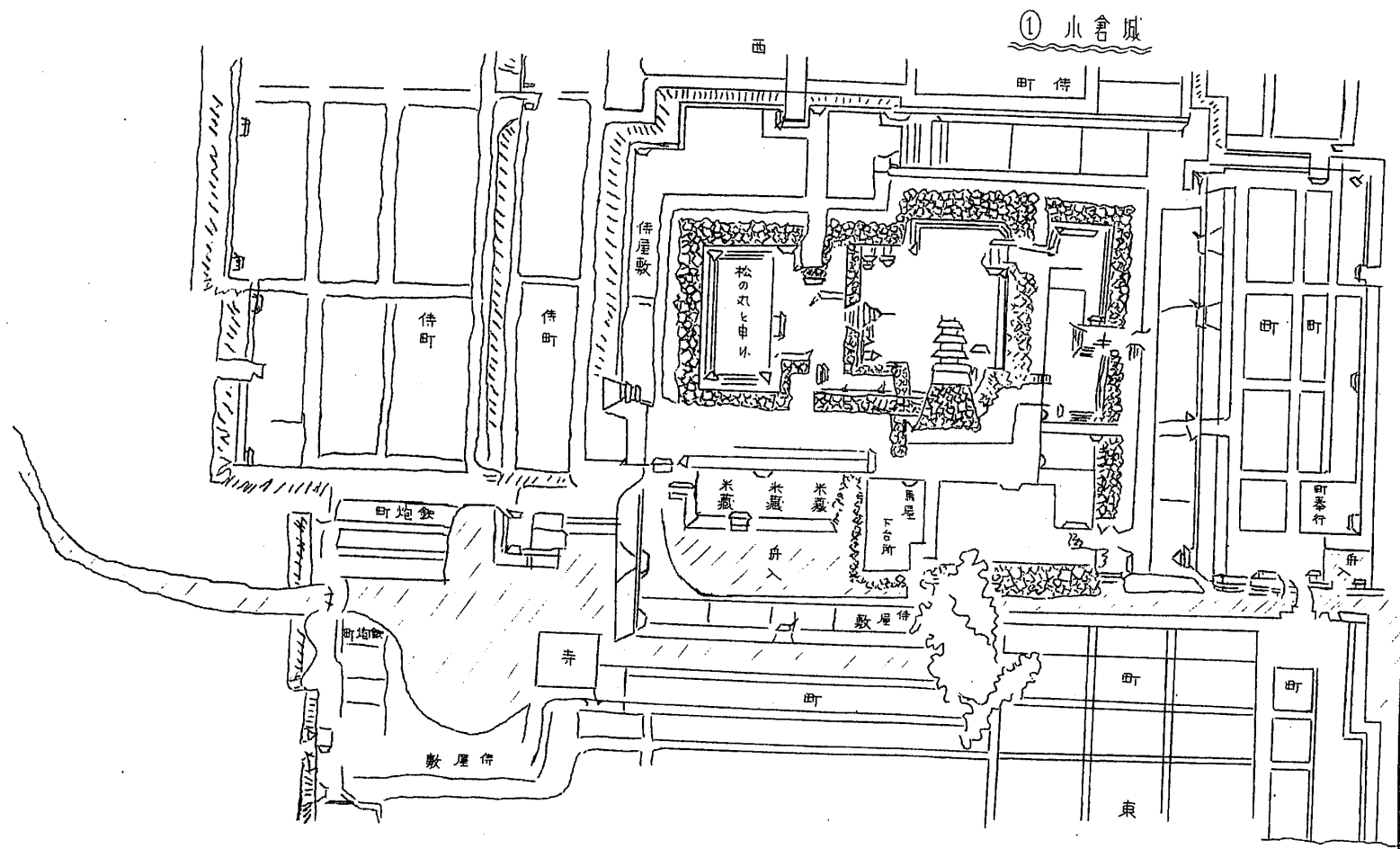
おとむ

おとむ

おとむ

おとむ

おとむ



小倉城の法度
 一 矢倉多門のいづれも無御座
 一 具足鉄炮同大筒鉄炮之薬石と存共不承
 一 人のうりかい之儀も法度ニ外間無御座由申しおとわかし由申
 及申
 一 御政易之者抱置共不承
 一 ざりしたんまうていの儀事の外法度さつく候仰付一人も無御座由
 一 ざくらを儀うち申共不承是も惣別御法度之由申

(城、園別紙)

① 小倉城

町の様へ

西土手藪高き二間斗堀之廣さ八間斗門左右 石垣城の石高き三間程堀の水へハ

南門左右城の石垣之高き五間斗堀之廣さ八間地水へ三間程残る分土斗藪
矢倉敷九二内四つ二重の矢倉有口北ニ貳つ西ニ貳つ南ニ壹つ東ニ壹つ已上六つ
貳つ門矢倉四つハあふき門也何も土丸し

一町之外のわ惣まわり五拾貳町也

矢落四十四出入口東ニ三つ南三つ西ニ三つ北海寺へ七つ合十六川口共ニ海寺
の口ハ不断不明□有

西土手高き貳間斗藪也堀之廣さ十間地水へ壹間

南土手高き水極六間斗地行水へ三間程堀之廣さ十間斗同方半分東へ八堀地
水へ壹間

東土手高き二間斗堀十間地水へ壹間南半東尾方藪也

海寺十四五町町のうら石垣高き二間ニ旅多しをわけ所々ニ矢倉有何もロ々の門
ハ不及申外わ矢倉ごとニ不断番之者住居仕町のうらしう。而も外のわの門
の左右近辺ニ知行取の屋敷御座外わの西のそと海寺ニ三町町有いもし
町料人居申此うしろも石之ことく石垣つさむいかけ矢倉有此町之南外わ

町中の水

の極さ西へも三町程南へも三町程のため池有西車町中か此水城の水ニ甲川
小倉の尾り西海寺ニ若菜と申所筑前之領分也

ふとろ

三人のおとろ

おほへ之者

松井式部 貳万五千石

初上八郎左衛門 年七十一

尾万石 口内堀馬外へ尾城の御座此堀
の堀馬外へ尾城の御座此堀
の堀馬外へ尾城の御座此堀

有吉たのむ 壹万五千石

井出龜石衛門 年七十一

尾万石 口内堀馬外へ尾城の御座此堀
の堀馬外へ尾城の御座此堀
の堀馬外へ尾城の御座此堀

米田監物 六千石

ついで龜介 年七十一

尾万石 口内堀馬外へ尾城の御座此堀
の堀馬外へ尾城の御座此堀
の堀馬外へ尾城の御座此堀

知行高之者

出願之者

牧左馬之丞 六千石

かゝ山主馬 十石

小笠原民部 五千石

坂崎清左衛門 貳千石

何も尾中殿取立之者之由

長岡勘解由 五千石

坂崎清左衛門 貳千石

何も尾中殿取立之者之由

黒田藏人 貳千五百石

家馬菜六百斗御座由

家馬菜六百斗御座由

家馬菜六百斗御座由

家馬菜六百斗御座由

家馬菜六百斗御座由

家馬菜六百斗御座由

家馬菜六百斗御座由

家馬菜六百斗御座由

家馬菜六百斗御座由

家馬菜六百斗御座由

家馬菜六百斗御座由

家馬菜六百斗御座由

家馬菜六百斗御座由

家馬菜六百斗御座由

家馬菜六百斗御座由

家馬菜六百斗御座由

家馬菜六百斗御座由

家馬菜六百斗御座由

家馬菜六百斗御座由

家馬菜六百斗御座由

家馬菜六百斗御座由

家馬菜六百斗御座由

家馬菜六百斗御座由

家馬菜六百斗御座由

家馬菜六百斗御座由

家馬菜六百斗御座由

家馬菜六百斗御座由

家馬菜六百斗御座由

馬支
飲物之者
足利家御座此堀

一長岡中務殿と申三奈の御舎弟かわらと申城ニ貳万五千石御取被成此十一二年
以前迄御座ハ共知行應御座由て御寺前不殿と被仰知行上ヶ被成切米少つ、

南へ本丸のうしろの外へ窓がまへの堀也此の南半分より竹藪中ニてけ此角
ニも待必公有南の本丸下ニハ鉄炮之番番ニ不町居申ルと見立いて家町ニ三
間門入有
東の方石垣高さ六間多門也門口東ニ巻つ北ニ巻つ西ニ巻つ門矢倉就つ巻つハ
かき門也
一 矢倉敷十二門矢倉共ニ
三ノ丸東北南三方三十四百八十足間ニノ八百五拾九間町ニノ十五町十六間也
北東ニ方土手高さ五間程敷也此方ニ口就つ門殿坪あり高さ六間斗門矢倉有
外かたの上ニハ巻いもなし堀之廣ニ井間出口共ニ五し也兩方石垣築出し中
ニ八間の土手橋なり地行分水ハ、巻間程道の方水た、き石垣也堀のてたニ
松塚うへ申ル

南の方本丸の通り土手高さ水が十間斗堀の廣さ水の上ハ廿四五間と見へ申ル
口ハ井間也有御座休地行分水ハ、六間斗と見へ申ル
同方ニ、丸之通り分東へ土手高さ六間斗堀之廣さ井間比方ニ六十間の廣さの
所ニ町程有是也地分水ハ、巻間斗
西之方土手高さ五間程竹藪也西ニ南の角ハ五町斗ニ西ハ四町ため池あり海の

町の橋

唐人町

福岡藩家数

年々
不月入

ことくニ見へ申ル
一 南西之角ニ口有分り門也ちいさき橋あり其外ニおいまわしの馬場あり此方
かまへ分三町程参り本丸たいようの小山あり
一 外方わ東北南四方色万六百五拾足間ニノ三千五十三間町ニノ五拾町七段一間
東よりの方ニ口巻つ此方四町程ニ石垣高さ六間上ハ奈原也四十八間之橋あり
又巻町五反程中嶋ニ町巻筋あり又オ七間之橋あり福岡と其の間の間二町六七
反の深さ也な川なり
南ニ口四ッ土手高さ五間斗坪かた石垣高さ六間程敷也堀井間
町ハ北ノ海手ニ能町巻筋又ちいさうら町あり則うらへ舟着申ル舟入もなく
とれたの方の徳あまへのさわもたへ丸や舟十四五せうのほせてあり
西ニ口巻つはり八十間斗是もちいさき橋あり是ハ町のひまへ城のひまへの堀
ハ右ノため池なり外の方の門何じかき門也西ニ外ニ唐人町と申ルて家百
斗あり

一 福岡町の家数千程も御座由申ルもあたの家数昔より色戸間の所と申ル福岡
へも越し申ル間八九千も可有御座由申ル
三人之年寄 おほへ之香

栗山大膳 貳万石
黒田内膳 壹万五千石
井上主馬 壹万石
栗山下庵 貳千石
野村大守 八千石
つきの礮石馬込 千石

知行高之衆

小河内殿 壹万石
黒田美作 壹万石
黒田小市良 七千石

系衆

一家中馬衆數六百御座由 組頭廿人
一鉄炮之者前之と八百御座由 鐵砲七人
一弓之衆 貳百人

物成

一寛永三年之物成いづも合何程と申へも少ハ日ニヤケト共物成らひ申
間敷之由申
石衛門佐殿不斷何球御座御座之由申へも切御鷹野馬自然拵球被成

金山

由旧冬極月廿八日ニ國御立之由申
一金山之事 一おとゑんと申所福岡分五リ 一たしと申所福岡分十リ
五年以前之なる出来申由石之金山家數四五百程じれも御座由能時ハ
人數五六千もあつまり申其時ハ一人色ヶ月ニ金子六分の愛上ニあほり申由具
後四分三分ニ成申由是も田畑ほりハ危つほ金子拾貫匁之由此山之愛上
ニうけ申多長門の國奥州やと申者金山數あまた御座由銀子貳千枚ニあうけ
ハハんと申由又石見の者正少と申者つけ上ケ三三百枚ニ被仰付ハと
申請合申ハ共其銀にて不済申就其よて金山不出居申由申外金山の數一ハ
うしやく一燒山一十石なる一若杉一かな出と申山も有おとゑんたニヶ所カ
うしやくと申山前之とハ能御座由得共今ハとれも不申右之ニヶ所の山ニ
ハニ三百程つゝも居申由申口成程御座由申

去方ニ侍する者

一去年上方ニ侍十三人江戸之御衆之口ニ御抱被成由申外千石取申仁危人
残るハ五六百石之衆と申何と申侍と名伏鼻申ハ共不存ト申
一覺書ニ御座由條之筆色ケ茶も無御座由通めいゝ善立不申上ト
符内ノ筑前ハ四十里程御座由申

多門城

又留米二月八日 = 参中六日逗留任其内一日金山へ参申十一日 = 柳川へ参
 一本丸北の方四十三間山岸也高き八間斗北西木志けりて石垣もなく二重屋祓の
 多門なり
 一東の方八十三間石垣高き八間斗二重屋祓の多門也中程 = 三重の矢倉有門口矢
 倉有不明の門と見へ申
 一南 = 坪の志つ有釜いなし堀のひろさ十間上分と水返六七間と見へ申上土橋
 なり
 一西山岸多門下ハ川なり
 一矢倉数四方の角 = 四ツ東の中 = 志ッ門矢倉共 = 以上六ツ也
 一南 = 志ッ門矢倉なし
 一本丸の東下 = 西東才間斗北南本丸の北の丸有土寺高き三間斗よしおくの
 堀也
 堀之廣さ十五間地分水へ二間程
 二ノ丸東の方南の方二方のまハリ八町也北南へ長き城也西ハ川なり
 東の堀廣さ廿間地分水へ二間程土寺高き三間堀いもなし敷也なし
 南堀廣さ十八間地分水へ六間斗土寺高き八間口南 = 志ッ土橋なり北 = 口志ッ

土徳也

西ハ川也土手高さ四間斗

北の方とて三間程堀廣さ十八間地分水ハ二間四方をいなし門ハかぶき也左右

ニさく有三ノ丸まわりと町九間

東の方堀廣さ并間土手高さ八間斗地分水ハ六七間堀外ニ侍町有此地行ハ六七

間も三ノ丸分ひくし

西南ノ堀廣さ十八間土手高さ八間斗地分水ハ六七間北ハ三ノ丸也四方をい

なし

四ツめ丸西東北南四方のまじり十九町

東の方堀廣さ并間土手高さ三間程地分水ハ危間斗半

西南の堀廣さ八間土手高さ三間程敷地地分水ハ二間程北の内ハ三ノ丸也

口西ハ危ツ南ハ危ツ東ハ危ツ以上四ツ何れもいなし何れも土丸し

一町の外のわハ無御座候町ハ西東拾三町三筋あり四筋の所もあり

町の家敷千斗も御座由

三人のおとゑ衆

有間大膳 危石石 法印の若衆と申

知行高 有間左介 危石石 五千石

有間伯耆 七千石

稲継危岐 六千石

土田縫殿 三千石

出頭

松岡次郎兵衛 三百石

家中馬乘三百程御座由申

鉄炮之者四百程も御座由申

一旗之普請堀之分ハ皆出来申と見ハ申本丸斗をい有残分ハいなし普請也

何残仕共見ハ不申ト二ノ丸三ノ丸の見付之土手兩ニくぢれて所人数十人斗

ニ併つくりい申去年の普請ハ何方出来申と或と尋申トハ七普請御座由共

何方共不存と猶ハ申ト二ノ丸の外堀三ノ丸の外堀近き北はり申と見ハ申

由間去年はり申とまた余人ニ尋申トハ七去年出来申由申今看指たる普

請無御座由

北内金山

御座

馬東

出頭

知行高

有間大膳

危石石

法印の若衆

有間左介

危石石

五千石

有間伯耆

七千石

稲継危岐

六千石

土田縫殿

三千石

出頭

松岡次郎兵衛

三百石

家中馬乘

三百程御座由申

鉄炮之者

四百程も御座由申

一旗之普請堀

之分ハ皆出来申と見ハ申

本丸斗をい有残分ハいなし

普請也

何残仕共見ハ不申ト

二ノ丸三ノ丸の見付之土手兩ニくぢれて

所人数十人斗

ニ併つくりい申去年の普請ハ何方出来申と或と尋申トハ七普請御座由共

何方共不存と猶ハ申ト二ノ丸の外堀三ノ丸の外堀近き北はり申と見ハ申

由間去年はり申とまた余人ニ尋申トハ七去年出来申由申今看指たる普

請無御座由

一 玄蕃殿去年上方ハ江戸へ御下之由申

一 寛永三年之物成いつても合何程ちあい申と尋トハ七去年日てりトハ共水たぐ

さんニ御座由不苦由申ト所ニ分少ハヤケトハ共普請無御座由と申

一金山久留め分五里東ニ北河内と申所也是ハ家ニ而ハ無御座由ニヤニ而御座

由三百程御座由ハ心と見申トハ七所ニ居申ト者六百程ハ御座由申此山也

塚境

遷

札敷

札の代

覺書の様子

柳川城へ

まふし無御座ほりちと申して是つが程つ、下へなりてみし色人危ケ月の雲
上金子六分ニ御座由其後四分ニ成申し今ハ金も出不申し付人皆出申お、
くハ居不申しと申し今ハ人何程居申しと鼻トへち我等の参り前日札改見申
トへち未札敷六百御座由申しトヤハ、
具明申して家升間ニ是間程ニ人
居申し今も札之代ハ金子二分ニ而トと申し此山ハ谷塚ほり申し米の林ハ金子
十匁ニ三石と申しトヤハ無御座ト

一及留め分海ハ五リ及留め分府内ハ何程トと鼻トへち四日許り御座トと申
ト何り可有之と申トへち路のつちりハ不存由申し其者さしき分四日ニ及留
めへ余参由申し玄蕃殿去年上方分江戸へ御下之内ニ御兵部殿ニ御座ト切々
鷹野ニ御出被成由ニト
右之外覺書ニ御座トケ條之趣危ケ條も無御座不承ト其通筋々ニ書立不申上ト
及留め分

柳川へ 五リ 柳川町のつれ迄及留めの領分御座ト
一本丸西東五十五間南の方石垣高さ半分東の方四間程残西貳間程南東の角ニ二
重の矢倉有半分東多門残而西天守之まわりる也
一北南四十五間西の方石垣高さ半分南天守之まわり其間程残る北の方石垣高さ

四間程西北の角ニ付て多門有て中ニ西東へい矢倉有て残分る也
一北ノ方石垣高さ四間程兩角ニ三重の矢倉有て兩方ニ付く多門有

一東の石垣高さ四間程中ニ口門矢倉有左右ハ多門有
天守の台七間斗五重の天守也

二ノ丸北南四十五間西東四十三間
東ノ方土手高さ三間斗多門有て兩角十間程る也
北土手三間程皆る也

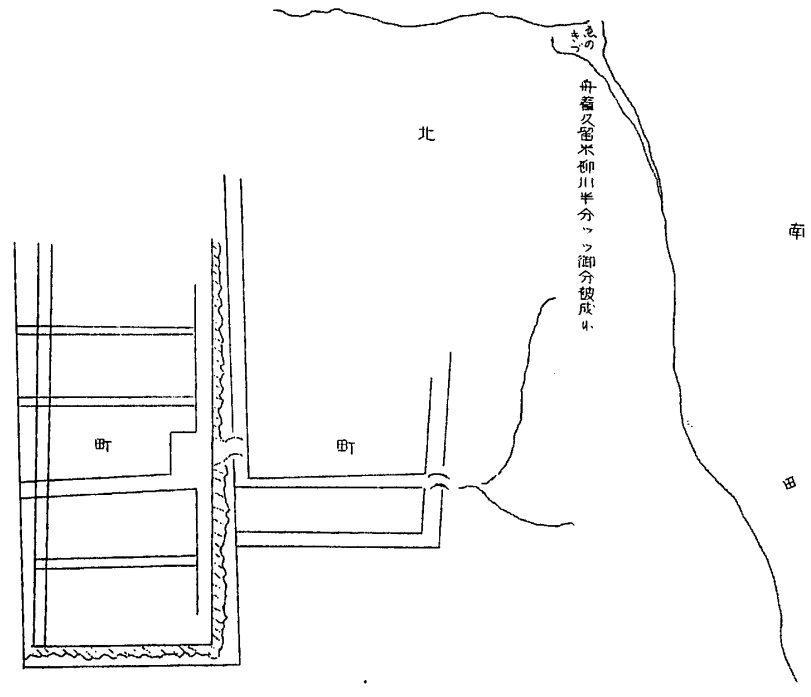
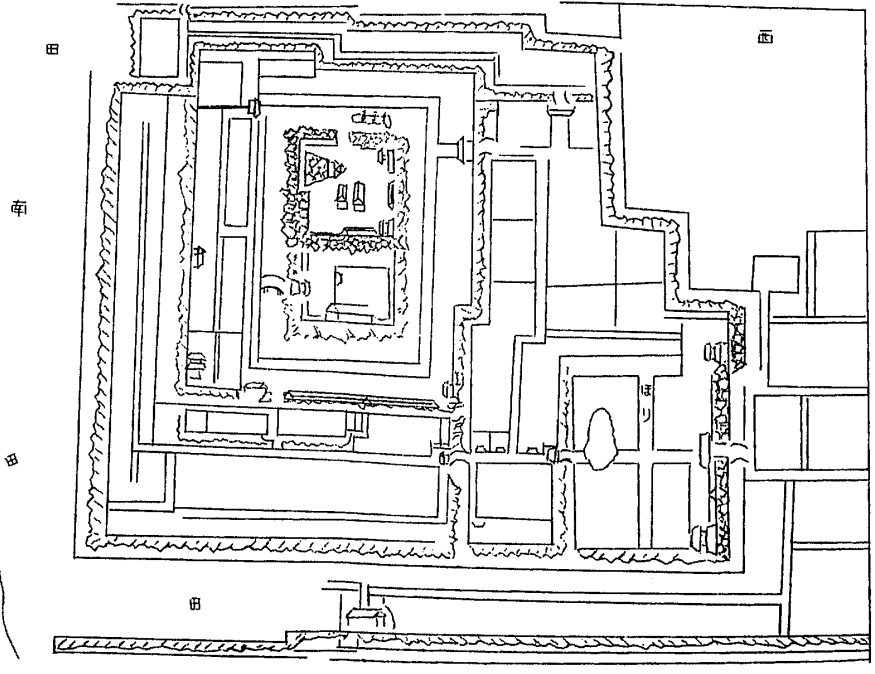
南ニ口門矢倉有左右ニ付く多門有櫓間なり
北南東三方の堀廣さ地間つ、西の堀四十五間中嶋有地分水ハ八卷尺之所も有

二尺七有三分ノ丸東のかわ百八十間町ニメ三町兩角ニ二重の矢倉有門分北ハ百
間の多門有口斗斗有之竹れんじのこし板の戸球たて申しつき上ケ球も上ケル
て御座ト鉄炮具足との入トと見へ申し門分南ハ地間水藏と見へ申し角矢倉
の間る也口斗斗門矢倉有土手ニ間斗堀十五間
南のわ百六十間町町四十間中ニ矢倉危つ有土手高さ二間斗る也

(城ノ圖別紙)

④柳川城

④ 柳川城



舟橋又船水柳川半分ッ御分被成ル

堀之廣さ十七間地分水へハ貳尺程有
 西ノ間東間前土手高さ二間斗敷也堀之廣さ十七間
 北の間南と同一土手高さ二間斗敷也堀廣さ十間斗明申下所ハ見へ申侍屋敷
 のうらゝ能ハ見へ不申トハ共明トて見申分ハかくの分也此方ニロ砲門矢
 倉有
 矢倉数七ッ門矢倉共ニロハ貳ッせまわり合拾貳町四十間也ロ貳ッ共ニ橋也
 一四ッめの丸東の方ニ有北南東町十間西東百間土手の高さ壹間半程敷也堀の廣
 さ八間北東南三町此分也東ニロ有かふき門せしあり西ハ城なり
 一五ッめの丸南東二方十町此二方之うらハ惣かまへの堀なり
 北ニロ門矢倉有橋あり堀之廣さ十五間東北の角ニ二重の矢倉有此方ニハ壘
 有
 一六ッめの丸東の方貳町井間うらハ惣かまへの堀也
 西東の長さ六町五十三間二方合七町十三間也北の方堀廣さ十五間ロ北ニ有門
 矢倉有橋有土手の高さ壹間半東の方うらハ惣かまへの堀
 一七ッめの丸東の方貳町北の方貳町是も東のうらハ惣かまへの堀也
 北ニロ有橋なり堀ハ八間也土手も門もなく敷也

城の外圍
町の儀へ

一 八つめハ外のわなり北ニ口有貳町程石垣なり高さ四間程面角ニ二重の矢倉左
右ニ付て多門有殘分多しなり

一 城之外のわまわり卅町五十間土手の高さ七間半敷也堀の廣さ十五間

一 町之外のわ東之方十七町口巷ッ門矢倉有堀之廣さ十五間土手の高さ七間半敷
也堀の南の外のわの通り迄御座ル内ハ四町程家もなくた也

一 北の方九町口巷ッ門矢倉有堀なり門ハ東敷西ハかた町舟付之土手也堀の廣
さ十三間六間舟之入申堀川なりとしかた町なり西之方堀川と町の間四町程
もたけ也

南の方町半分ハ城なり半分東ハ城之りまへ南へかぬのて町有外ハたけ
也堀もなし城之りまへ五分程南ハ八間斗の川海道あり

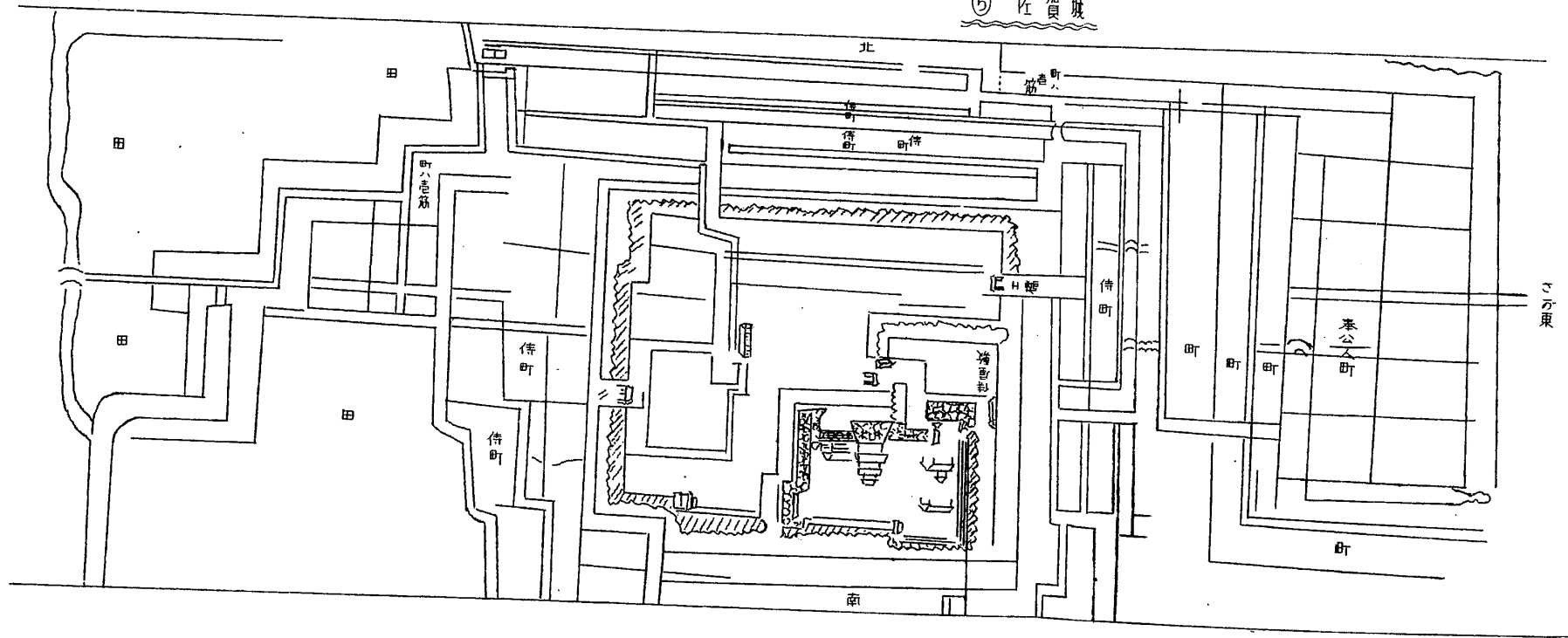
町の外のわ北東ニ方合州町也此外ニ北の方入口より一筋町あり是も八間斗の堀
御座ルことしあり城之四方田之中二町三町の間ニて四間五間の堀十文字もほ
りして参らんと存ル先へまわり不申ル而ハ不設参ル田の用水ニ仕ルとて水た
めの堀也

飛騨殿 去年上方江戶へ御下之由申ル
一 城分海へ西南半リ程ッ、御座ル由申ル

さの

二月十五日 = 参中五日逗留其内田の金山へ十リ御座ト金山へ参
 二日 = 仕廿一日 = のら津へ参トと路 = 赤大兩ふり川の水出木
 うざと申所 = 五リ半参其日ハとまり申トオ二日 = かわつへ参申ト
 一本丸北の方九十間石垣高さ四間斗天守又何之矢倉之外ハるいもなし堀之廣
 さ十七間石垣と堀之間 = 少々地有ゆるへて
 同し方天守之台高さ七間斗 = 見へ申ト
 一 東の方九十間同北の角分南へ十五間石垣高さ四間残る分土手高さ二間程土手
 の分ハるいなり石垣の上ハるいなし
 南ハ三ノ丸外見へ申ト土手高さ四間斗あり堀ハ三ノ丸之堀東の方延ま
 わり一所之堀あり
 西ノ方侍屋敷御座ト不披参トへ共こなた方見へ申ト石垣高さ四間程天守之
 付分ついで北の角へ矢倉有疎る分ハるいもなし堀之廣さ十七間本丸の
 口北 = 有門矢倉有矢倉之數天守之付之矢倉門矢倉なとへハるい
 一 二ノ丸東の方百十間土手もなしうむぎ敷也
 東北の角 = 侍屋敷あり 東 = 杖木こや有堀ハ三ノ丸一所之堀なり廣さ卅間
 北の方地の廣さ卅四五間土手高さ二間程堀廣さ十五間二ノ丸もなし口西

⑤ 佐賀城



ニありかふき門也土橋なり

一三ノ丸北の方敷百四十六間町ニメ四町六間也土手高さ二間程奈一巨あり

一南方面分六十間参り而侍屋敷御座りてほりてたハ不設参り曼分本丸のうしろ

遠見へ申し此六十間之所ハ敷此次出角ニ三重の矢倉有本丸堀之極近多し有堀

ハ四方共ニ廿間也口東也土橋かふき門也北ニ口也土橋かふき門也

西ニ口也土橋ハ南方分土橋ニ而中八門斗橋なりかふき門也

東の方侍屋敷ニ而堀のひまへ見へ不申也

一侍町の廣ニ東の方拾貳町十間堀十間斗

南の方 十三町六間堀之廣ニ五六間外ハ田也

西の方 十町十間堀の廣ニ七八間之所も有五六間之所も有かまへの堀とて

北の方 十三町六間堀ひろさ六七間なり半分ニあり町のさいニ堀なき所也

ハ見へ不申しめんく屋敷堀也

あり四方合五拾町廿二間也

一町の廣ニ堀之東北西三方球まわしして御座り石筋の町也東ノ西之舟着道長ニ

四十町町間也家千四百も御座り申也

町の東北西三方かまへ有土手高さ二間斗敷之所も角松の有所も御座り

侍町

町の廣

知行高
其程より多敷成

堀ひろさ十三間南ハ城也錦嶋殿正月廿八日ニ固分御たち御上り之由申
三人のおとら
錦嶋右馬介 八千石
錦嶋伊豆 八千石 おほへま者之由
錦嶋國書 八千石
熊代民部 八千石
錦嶋正三 八千石
錦嶋重八 三千石

出頭者

出頭之者
成住兵庫 九千石
文員之者由申

馬衆

御座之者
御敷四百八村

一家中馬衆七百程可有御座と申
一鉄炮之者八百程御座由申ハ城まわりニ村敷いしハ承ハ八千八村御座由申
由申ハ所之者申ハハ四百八村御座由申是ヨリ御座本ツ、拵出ルても四百八人
出可申と申
一寛永三年之物成いフモ何程ちのい申或是と申申ハへ去程日てリトハ共
木のきま申すなくあはりヤケ不申ハちと屋け申由申ハ物成いフモ八ツ

五百程御座之者

九ツ十成ニ及し申由申ハ百姓の居餘國ニ而見不申ハ手前よく見ハ申ハ
一鍋島殿不如何の御程ニ御せごトと異ハハ共何と申儀無御座成ハ能御出ハ儀也
なご申ハ

石田金山

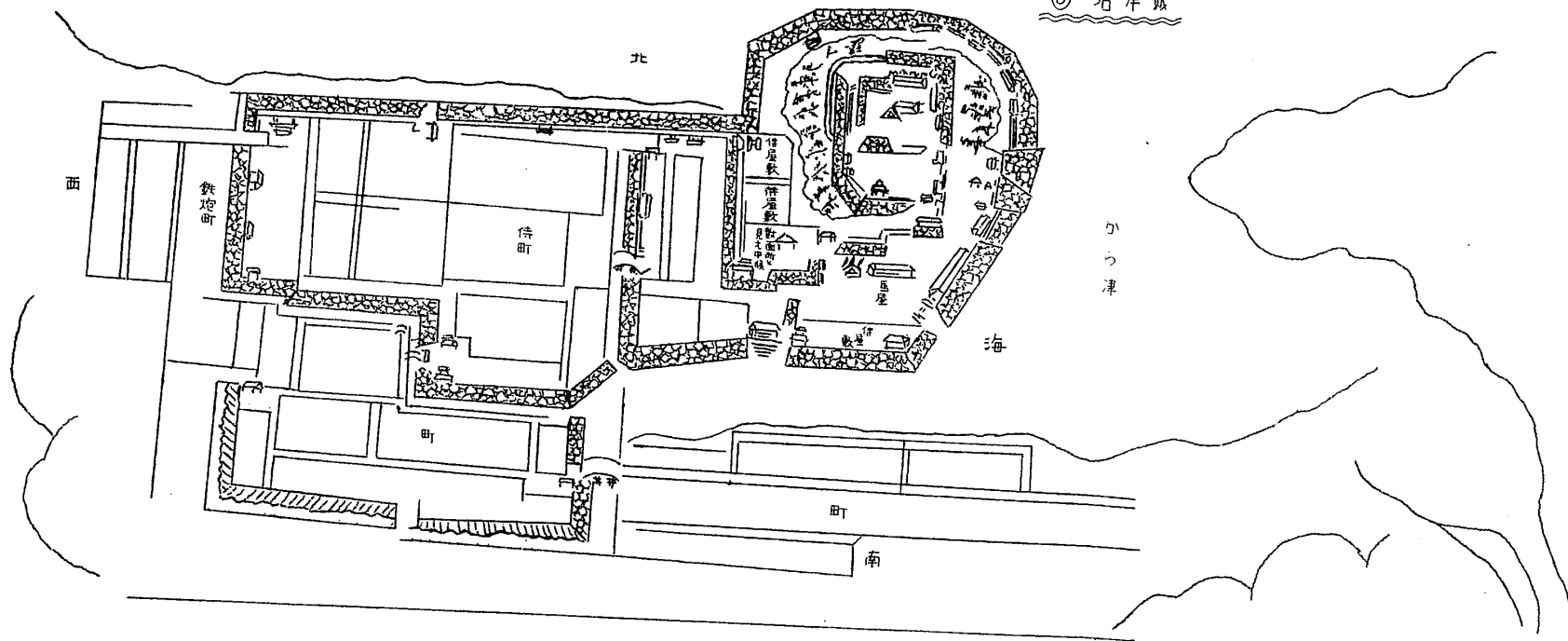
一とごうの金山今ハ少もとれ不申ハ無御座由申ハ
一あり田金山さのふ十リ西南ニ而御座ハ家持等ハ五百程御座トハ見申ハ所の
者申ハハ七百御座由申ハハかぬ少も無御座トて述ハ大村之山ハ参ハ無御座ト
七百之家之内ニ商仕ハ着之村人斗も見ハ申ハ此山の家作り又留め山石との
やう成テニ而無御座トテの外町作り見事ニ城下之町のことクニ御座ト去々年
十二月分ほり申ハハ共口明申ハ去々年三月分仕ハ申ハ去々年入こみ
申ハ時ハ六七千程人居申ハ由是ハまが山也まふの敷何程御座トと申ハハ六
十程ほり申由申ハ其内くさリハ付申ハハと申ハハハ七さるしまぶと申まぶく
さリニ着ハて上上元年ニ銀手百枚ニ成申山御座トつると申ハ其山も傾ハなく
罷成トと申ハ故の山くさリニつて申ハハ御座トつれ共又なく成何れも熊山ハ
終無御座之由申ハ今故の太切のまぶ貳つ者ほり申由申ハ今と孔不申ハ山ニ少
ニ而も人何とて居申ハと申ハハ故の米なとかり申ハハ不成ハニ付
ロヤ吹出し不申ハニ付其まハ申ハ由申ハ木ロヤの番御座トまわり三リニさ

御座之者
御敷四百八村

御座之者

御座之者

⑥ 唐津城



一本丸南ノ方三十五間石垣高さ七間程天守之台高さ八間斗南西の角は有天守石垣の外へ参り門御座トへ共不分明不申トと見へ不被参ト北ハ不及申東北西海也南斗地ツゞき也三方共ニとこ海也

北西角ニ矢倉貳ツ南東の角ニ門矢倉有西の中ニ矢倉三ツ以上四ツ門矢倉共ニ本の下の丸北南斗間西東四十三間南西の角ニ二重の矢倉貳ツちと間並有東南の角ニ矢倉三ツ南ニ門矢倉有米藏と見へ東邊の内ニ是ツ西邊の内ニ是ツ西之中ニ是ツ上矢倉七ツ貳ツの藏門矢倉共ニ

一山のふもととぐるりとまわり申と見へ申トへ共門御座ト不被参ト海手ハ舟ノ見申ト山のふもとと東北西三方共ニ石垣高さ四間斗をいりけ矢倉四ツ有

一ニノ丸山の西南根ノ西東斗間程ニ北南五十七間傍屋敷三間有口南門矢倉有

一右之丸の下城山之南東ノ根ニ北南六十間程ニ西東五十七間の丸あり山の下ニ馬や下台所有東の邊のさわニ米藏有南ニ傍屋敷三つ有東南の角海へ出申ト

口有門矢倉有口西へありかふさ門也此丸へ出申右ニ此門分三ノ丸の内へ十七間さし出門分内廿五間間敷合四十二間北南此間の丸上ノ段と一所ニ対面所と見へ申ト所御座ト口ハ東ニ有下台所御座ト丸分上り申ト此丸西南の角ニ二重

うすし門

の雨戸の立申矢倉有西北の角ニ重の矢倉有此石垣西南東三方共ニ高さ四間
程下台所之丸東の方海手城山之根の分ハ石垣高さ六間斗其ノ南東二方石垣高
さ五間此方矢倉五ツ門矢蔵共対面所之矢倉就ツ合ヒツ西ハ三ノ丸也堀なし
一三ノ丸西東百州間町就十一間
北南百十三間

標町本

南石垣高さ四間矢倉就ツ内ニ重の矢倉危ツ海手ヘロ有ウモミ門也兩方ハ米蔵
ニ此口不断明ト御座ル皆在ナリ
西石垣高さ五間堀之廣さ十三間地ハ水ヘ危間半ロ就ツ門矢倉有橋ナリ今危ッ
のロハ北面の角ニ有不明之門也皆在ナリ
北ノ方石垣高さ四間堀なし則海也皆在ナリ
矢倉七ツ門矢倉共ニ内ニ重の矢倉就ツあり
一侍町の廣さ北南就百八十間町三町十八間なり
一西東就百五十七間町ニノ四町十七間なり
一北ノ方石垣三ノ丸のなミ高さ四間堀なし則海也海手ヘロ危ッ矢倉就ツ在ナリ
一西之方石垣高さ五間堀之廣さ十三間地ハ水ヘ二間在ナリ矢倉四ツ内ニ重の
矢倉危ッ西北の角ニロ門矢倉あり土橋ナリ

うすみ門

の兩戸の立申矢倉有西北の角ニ二重の矢倉有此石垣西南東三方共ニ高さ四間
程下台所之丸東の方海手城山之根の分ハ石垣高さ六間ヲ其々南東二方石垣高
さ五間此方矢倉五ツ門矢蔵共対面所之矢倉貳ツ合ヒツ西ハ三ノ丸也堀なし
一三ノ丸西東百卅間町貳町十一間
北南百十三間

待町

南石垣高さ四間矢倉貳ツ内二重の矢倉危ツ海手ヘロ有ウモミ門也兩方ハ米蔵
ニ此口不斷明トて御座ニ皆空いなリ
西石垣高さ五間堀之廣さ十三間地ハ水ヘ危間半ロ貳ツ門矢倉有橋なり今危ッ
のロハ北面の角ニ有不明之門也皆空いなリ
北ノ方石垣高さ四間堀なし則海也皆空いなリ
矢倉ヒツ門矢倉共ニ内二重の矢倉貳ツあり
一待町の廣さ北南貳百八十間町三町十八間なり
一西東貳百五十七間町ニメ四町十七間なり
一北ノ方石垣三ノ丸のなミ高さ四間堀なし則海也海手ヘロ危ッ矢倉貳ツ有
一西之方石垣高さ五間堀之廣さ十三間地ハ水ヘ二間空いなし矢倉四ツ内二重の
矢倉危ッ西北の角ニロ門矢倉あり土橋なり

町の様子

舟入

おとな
知行高

一南石垣高さ五間堀之廣さ十間口巷ッ門矢倉有るなりし矢倉四ツ
 一七しハ両方石垣つき出し中四五間程ニキしあり町の方なり
 一東の方石垣高さ四間二重の矢倉巷ッあり多し海手ひろくせ侍町五
 角ニ御座ト矢倉敷合十二門矢倉貫ッ共ニ
 一町の外のわ廣さ北南貳町六間西東四町

一西南二方土宇高さ四間程堀之廣さ十三間西南ニ口貳ツかき門也何も土橋東之
 方石垣高三間堀ハ山寺分ちいさきせな川なれ堀さしこみ申ト侍町かまへの
 なミロ巷ッ十間斗の橋あり町のかまへの外東の方ニ五町長く町ニ筋あり町の
 家敷六七百御座トハんと見ヘ申ト

一舟入ハ町のモづれガ三町程東ニさく隊ふり十そう程のほせてあり大舟色々
 石垣ニ舟藏塚つき引入てあり志戸殿去年寺ガ江戸へ御下之由申ト
 一覺書御座トケ條之趣色々無御座ト具通銘々ニ書立不申上ト

おとな
知行高
関大膳 三千石
岡崎高左衛門 三千石
中村藤左衛門 貳千五百石

関主水 五千石

南河三郎兵へ 千石
今井十右衛門 千石

熊沢三郎石井門 千石 志摩殿おいと申ト
今井新右衛門 千石

藤藤惣左工門 貳千石
石こ三左次門 貳千石

石こ理兵へ 三百石本丸ノ留守居
佐々小左衛門 八百石

一家中馬乗百五十程御座ト由申ト

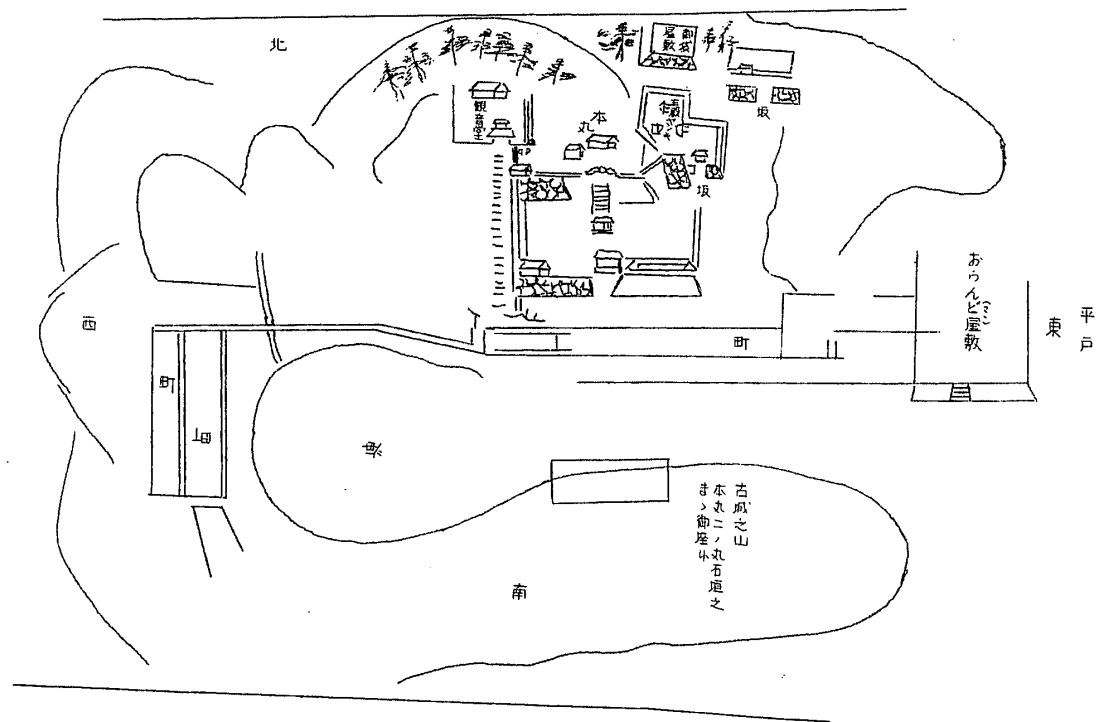
一鉄炮之者百程御座ト由
一寛永三年之物成ハフヒ合何程ちのい申ト申トヘキケ一やけ申由申ト

一明石丹後と申者五百石取ト而居申ト大坂ニ而 秀頼様舟頭之由申ト親ハ近き
 比相果其子則丹後と申由申ト浦之奉行を仕ト由

一覺書ニ御座トケ條之内色々無御座不承ト具通銘々ニ書立不申上ト
 から津ヨリ



⑦ 平戸城



平戸へ 舟り海上十八リ

(城、図別紙)

⑦ 平戸城

平戸城へ

平戸二月廿八日ノ朝舟分あり中ニ日返留仕三月一日ニ長崎へ舟ニのり申
一本丸西東六十五間石垣高さ五間程門分東多門西ハ低い角ニ矢倉居ッ門ハうら
ちふの門内南口なり北南うしろハ四十間斗と見へ申山のかくそ己の屋敷
なり

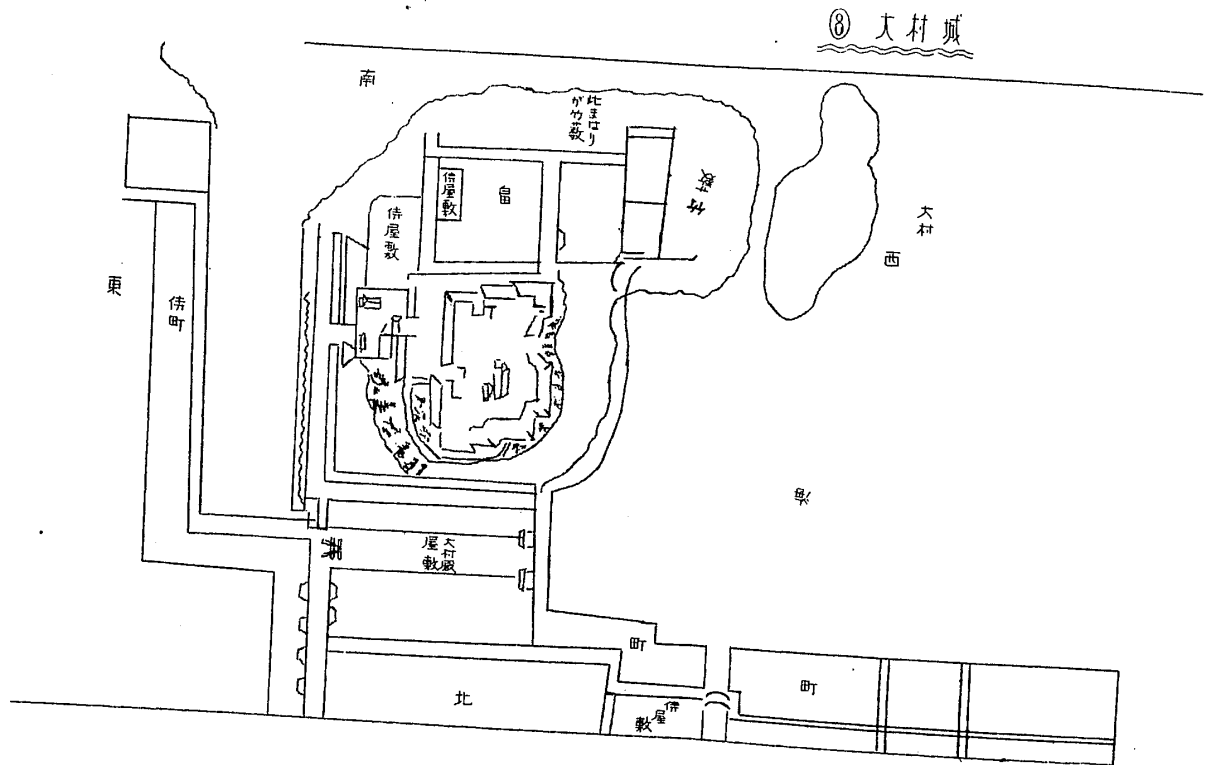
一 下之丸西東ハ十四間北南ハ十五間皆多門也口南ニ有門矢倉あり堀もなく下
ハ町也屋敷の上ニ別の道分石垣つき申屋敷御座ト城之内之様ニ見へ申間鼻
申トへ申御袋御座ト由申ト是分下賜ニ城之上ニ門矢倉御座ト而城之石垣間前
ニつゝ城之内之様ニ見へ申間鼻申トへ申ト主殿と申ト而肥前殿御舎弟之屋
敷之由申ト此向ニ古城本丸ニ丸石垣其ま御座ト四五町海へ出申ト山也
一 平戸溪むろの森のことくニ町の家入口のまわりニ老筋あり家十程も御座ト由
申ト

平戸
知行

三人のおとな
松浦主殿 十五百石
松浦内膳 十石
松浦内匠 十石

知行高

松浦主人 前十五百石
松浦采女 十石
松浦助解由 十石



儀せうくニ而ハ無御座ト日本へ参申辨自然ニ風悪ト長崎へ入のね申時先
 薩戸へよせ申由ト其長崎御奉行か人を被遣に物少ニ亦上ケトハ、可為
 申由被仰遣急舟長崎へ入トト被仰申間只之儀ト而ハ薩戸へよせ不申
 と申ト
 一きり志つれ志うていの儀前(長崎奉行員谷川藤三)と推六殿時御せんさく被成ト共ころ申ト
 申ト而内證ハころび不申ト由申ト今度河内殿御座ト而御せんさくつく被成
 ころび不申ト者ハ御せいとい被成ニ何大分ころ申ト由申ト未半分せり志
 ころ御座ト由申ト其若共も上ハころ申トつニ御座ト
 長崎ヨリ
 長よハ 三リ大初殿領分爰ヨリ舟ニ而大村へ参申ト
 大村へ 五リ
 大村 三月四日ニ参申三日逗留其内金山舟ノ上ナリ御座ト行矣ニ日金山ニ
 一日逗留仕ト八日ニ鶴原へ之道かう志ろと申所へナリ参申ト申ト
 申ト
 (成ノ図別紙)
 ⑧ 大村城

長崎ヨリ
 長よハ 三リ大初殿領分爰ヨリ舟ニ而大村へ参申ト
 大村へ 五リ

- 一本丸北南五十七間西東同前
- 一北西南三方石垣高さ四間程同なり世是者山の上なり山の高さ八間斗石垣の外
- 二三間段有南の道有まわり松原_ニ_テ_テみ_テ見_テ見へ不申_ト矢倉_ヲ北西海也
- 一東の方石垣高さ六間程いなし南の方半分東高さ六間東_ニ_テ_テ南_ニ_テ_テ南_ノ口ハ垣仕不明も門なし
- 一ニノ丸東の方廣さ北南へ本丸ノ長さ西東の廣さハ十五間上リロハ十間下之段上リ申道の見何の石垣高さ四間其下門_ヲ入_リ見何山山の切岸高さ五間斗
- 一ニノ丸本丸ノ南海の方西東廣さ九十七間也北南_ニ_テ_テ丸_ノ也_ノ竹敷取ハ_ニ_テ_テ内_ニ下台所又ハ侍屋敷三間あり此外_ニ_テ_テ五間七間_ニ長さ三町斗西_ハつ_キ申嶋あり
- 一城へ入申_ロ石垣北南へ九十間内南_ハ北_ハ六十間の間高さ六間其_ハ門_道石垣高さ五間程あり口東門矢倉あり其_ハ北_ハ本丸_ノ切岸十間斗入_リてなり
- 一堀之廣さ八間土橋なり道七間斗_ニ東_ニ土手高さ_ハ程_外七_ハ八間之堀あり舟入申_ト此堀の東_ニ間_道程置_テ百間斗の入口_ヲ其東_ニ侍_所なり城_ハ出申_ロ北_ニ也大木殿城_ハ無_テ御座_ニ本丸_ハあ_リて_ハ御座_ニ城_ハ出申_北面四十間_ニうしろ海

町の大小

の方へ六十間程の屋敷なりうしろに矢倉賦つ有うしろハ面ひのりなり城と屋敷の間は井間の堀有門口東にあり上ヶ木戸也
一町の家数五百程御座侍町の七つれ分海西へ忌筋九町御座侍町の外わと申
儀無御座侍

おとら衆

大村比右衛門 六百石 反長左介 四百石
大村内匠 八百石 大村新太郎 五百石
森田左衛門 八百石 大村善次郎 五百石
大村善次郎 五百石
曾長四郎左衛門 五百石

馬衆

一家中馬衆數百程御座侍由申し我等まじり侍而屋敷かそへ申し九十五御座侍
一鉄炮之者ハ眞八百八十御座侍由申し

御座侍

一寛永三年之物成之儀申しつもの半分由申し予の外日ニやけ申しハハ
ツ九ツなし申し由

北川二郎兵衛殿は戸
より召籠り

一江戸の御預ケ之者北川二郎兵衛殿と申者也今ハ法華仕道てつと申し平戸に居

六ヶ金山

御座侍

鐘

堀成丸の鐘
堀成丸の鐘
堀成丸の鐘

申山河依節兄弟之由申し
一金山ハ大くしと申し所大村分十リ西の鳴也家數百斗御座侍ハんと見申しハ七
家ハ眞百御座侍由申し屋敷わり五百間あり是御座侍由申し屋敷取れども
未家作り不申し金山の鳴左右山有て一リ程入申し西へハ何程ひろき嶋も不
存し右ハほり丸の金山左ハまさの山也此正月廿一日ニ明申し由まぶの數十
八其内くさりニ付申まふりあし鼻申しハ大村殿の山茂左北門申し山崎仕
仕者之山眞つ明申し日分上へくさりわさ上り所城ほり申し何其日分くさ
り出申し由申し二月中迄ニ故の山くさり十儀程も可有御座侍由申し是儀と申
ハハむしろ半分ニ而仕りかまやと申物ニ土產斗五分程入申し其くさりを商人
かいハんと申ねつミ仕りハハくさる百儀ニ付眞百五十めニ御うりハハハ由
商人百八十めニねをつけ申しくさり十儀ためし見ハハ金子眞五五分御
座侍間百儀眞百五十めニなしてハ成間數由御申しハハ商人申しハ其方御ため
しハハいかやうニ申も不存此方ためし見申しハハ商人申しハ其方御ため
申日ためしハハんと申由申し皆人申しハハ百九十めニ極り可申し申しはり丸
の札の要上商人卷ケ月ニ金子四分之由申しはり丸の札數眞十五百御座侍由申
し日々ニ入足州人ツ、山ハ參申し間人の五千七の有御座侍大村分金山ハ參し

金山通功寺建立

藤ノ物運五十

分

同寺山運上

山崎山守子

表分

きりしたへんし

金山通功寺

覚書に依り

切手無御座トヘモ舟ニのせ不申切手之費上危人銀子就分宛大村ノセリ西
渡リ口河谷と申所ノ所之庄ヤ切手出し切手無之トヘモ舟ニのせ不申山米
之ね丁銀百目ニ就石就斗三斗仕ハ萬ウリ物ハ十分一之費上

母山ハほりて危人ニ何程と申雲上無御座トくさり出申トヘモ百俵のくさり
之内三十雲上ニ上ケ残七十俵又危分山崎へ出し残る六十俵四分六分ニわけ六
分城山主取四分残ほりてい人御座トても取申由申ト是山ノさほうと申ト又
此金山ヨリ七リわきニとぎつと申所ニ銀山出来申由今ほり申トヘモ善悪ハ志
れ不申トハの様よくいハんと申ト

一きり志たん志うてい之儀事の外きつくせんさく被成一人も無御座由申トせん
さくの予礼ニ番村々迄ニも御座ト

一金山之儀ニのいの者又兵社ト申者去年ノほりトて見金子七拾め上ケ申被仰付
トヘと申ト由則其金拵セ江戸御年寄衆へ被得御意ハ様ノ金出申ト由被仰トヘ
ト今ハ何程出申トハん共三年ハ大村殿へ被下トと被仰其分此正月廿八日ニ口
明申ト山崎ハ又兵ハ茂左海門兩人之由申ト

一覚書ニ御座トケ條之趣危方條も右之外無御座又不承ト其通銘々ニ書立不申上
ト

大村ノ

いさてい

あや津

ひう志ろ

石御座ト申

鳴原

四リ

長崎ノ鳴原

鳴原之辰

三月九日

參中

二日

逗留

仕十二日

肥後内長

舟ニの

リ申ト

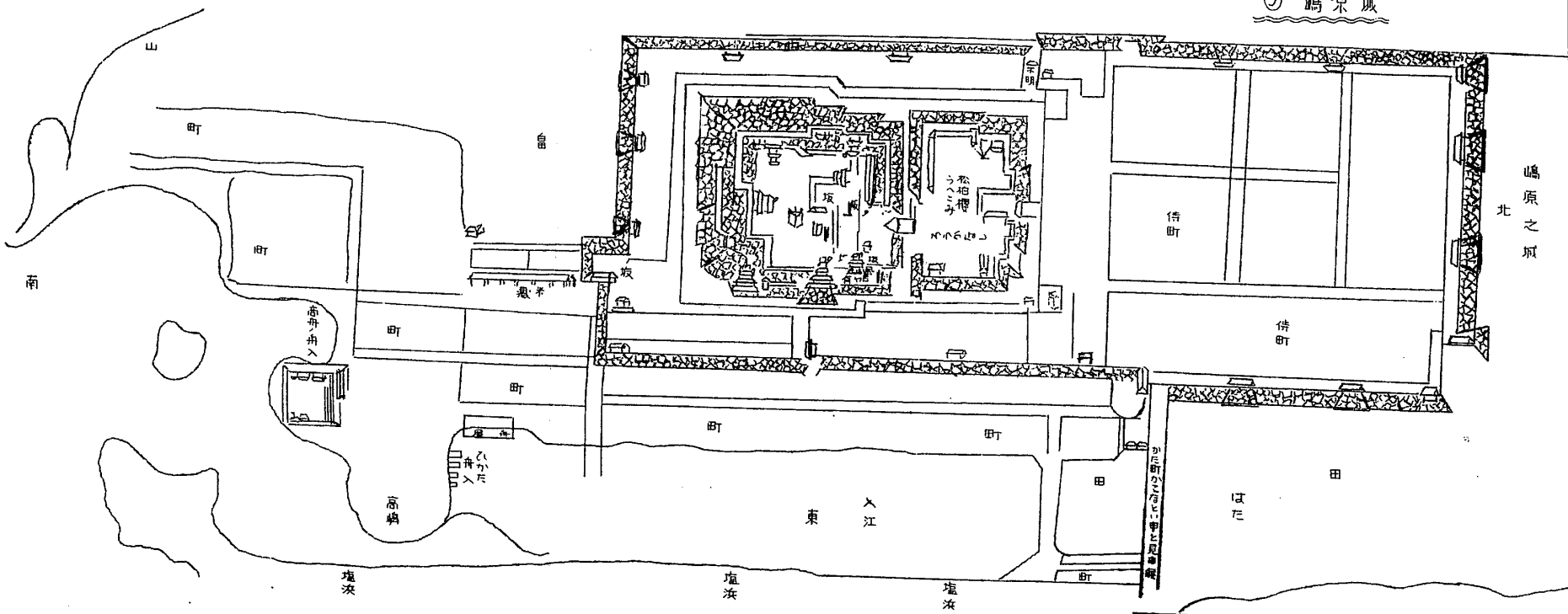
(感ノ図別紙)

⑨ 鳴原殿

鳥原之城

- 一本丸東の方六十間本丸さやの石垣高さ水が六間程をいなり地分水へ三間程角＝三重の矢倉有此所の石垣高さ八間程本丸の石垣ハさや御座ル而高さ志れ不申ハ往去六間之石垣之をいの上分見ハハ三間程上へ見へ申ハ
- 一南の方八十間さや共兩角＝三重の矢倉之所石垣高さ八間中の石垣高さ六間本丸石垣高さ志れ不申ハ六間の石垣之をいの上分三間程見へ申ハ矢倉之外ハ並い也堀之廣さ十五間十三間之所も有地分水へ三間程堀ハ四方共＝同前
- 一西の方七十六間半分南石垣高さ八間残る北の方石垣高さ六間皆をいなり六間之石垣之をいの上分本丸石垣三間見へ申ハ
- 一北の方石垣四間程見ハ三ノ丸へ出外所之石垣也皆多門なり
- 一本丸ノ口北＝有坂之上リ門の左右石垣高さ三間程坂下本丸石垣高さ六間
- 一本丸矢倉敷三重の矢倉三ツ門矢倉三ツ門矢倉三ツ門矢倉三ツ門合五ツ也
- 一虎ツ東＝三重の矢倉三ツ門矢倉三ツ門矢倉三ツ門矢倉三ツ門合五ツ也
- 一西ツ南丸南東の角＝四方取もなしのちん新敷出来申取ッ有
- 一北ツ北南州間西東ハ本丸之廣さ矢倉敷七ツ門矢倉三ツ門

⑨ 鳥原城



廣さ十間

一 二ノ丸の外目ニノ丸西東六十間北南六十間東北西三方共ニ石垣高さ五間地々
 水ハ三間程本丸の方石垣四間程西ノ方ニ廿五間之多門十間之多門あり四方共
 ニ矢倉之外ハ多也
 一 矢倉敷六ツ門矢倉多門共ニ堀之廣さ四方同前
 一 待町廣さ城之南ヨリマへのさわか北ハ九町四十間西東東町四十間
 一 口北ニ巷ツ西ニ巷ツ南ニ巷ツ東ニ東ツ合五ツ何モ門矢倉有
 一 石垣高さ北西南三方ハ二間東の石垣高さ四間町の方也
 一 矢倉東の方ニ十七南ニ五ツ西ニ十四北ニ五ツ已上四十巷也門矢倉共ニ四方堀
 なし四方共に多あり
 一 多いのつくろい本丸南の角ハ四十間程腰板々上ノ土のさの白土つけな
 おし申ハ三ノ丸の門矢倉之南のつまぬり存おし申ハ同丸西南の角の多門のつ
 ま分東ハ五六間下地分仕存おし申ハ外わの多い北ニ四間同其近所ニ二間ハ
 下地分仕存おし申ハ西の方ニ廿五間并巷間八間九間四間五間之所十四所下
 地分仕存おし申ハちやゆりルて御座ハ所モ有其内矢倉モ東ツ西の方分仕存お
 し申ハ南の方外わ石垣之下町之前ニ米藏有其うしろニ屋敷敷つ出来申ハう

所載地名一覽

地名	比定地名	現行町名	打名
中津	中津	大分県中津市中津	
山	山	大分県速見郡山香町山香	
山	山	大分県速見郡日出町日出	
山	山	大分県速見郡日出町日出	
山	山	大分県大分市	
山	山	福岡県小倉市麻生	
山	山	福岡県豊前市香川	
山	山	福岡県豊前市八屋	
山	山	福岡県豊前市八屋	
山	山	福岡県豊前市松江	
山	山	福岡県築上郡椎田町椎田	
山	山	福岡県京都市都野田町都野田	
山	山	福岡県小倉市小倉	
山	山	福岡県田川郡香春町香春	
山	山	福岡県小倉市呼野	
山	山	福岡県田川郡香原町上採銅所	

田代 福岡三池郡高田村代「又は八丈郡黒木町田代」
 福岡大川市榎津
 佐賀県佐賀市佐賀
 佐賀県唐津市唐津
 佐賀県東松浦郡厳木町
 木うらぎ 厳木
 とさう 佐賀県西松浦郡有田町有田
 あり田 有田
 佐賀県杵嶋郡江北町佐留志
 佐賀県佐賀市嘉瀬
 佐賀県佐賀郡久保田村
 佐賀県多久市別府
 佐賀県東松浦郡厳木町笹原
 佐賀県東松浦郡厳木町岩屋
 佐賀県東松浦郡相知町相知
 佐賀県東松浦郡相知町久保
 長崎県平戸市平戸

25 25 25 25 25 25 26 26 26 26 26 26 30 30 30 30 30 30 31

たびら 田平 長崎県北松浦郡田平町田平
 大ちか 小値賀 長崎県北松浦郡小値賀町
 長 小長 長崎県西彼杵郡長興村長興
 大 大 長崎県大村市大村
 かうまろ 神代 長崎県南高来郡神代村神代
 大くし 大串 長崎県西彼杵郡大串村大串
 河 谷 (川棚) 長崎県東彼杵郡川棚町川棚
 とさつ 時津 長崎県東彼杵郡時津町時津
 長崎県諫早市諫早
 あや津 愛津 長崎県南高来郡愛野町愛津
 いこ村 伊古 長崎県南高来郡瑞穂村伊古
 こま村 古部 長崎県南高来郡棚田村古部
 高崎島 長崎県島原市
 長 熊本 熊本市 長洲町長洲

38 39 40 40 40 40 43 44 44 44 45 45 45 45 45 48 45

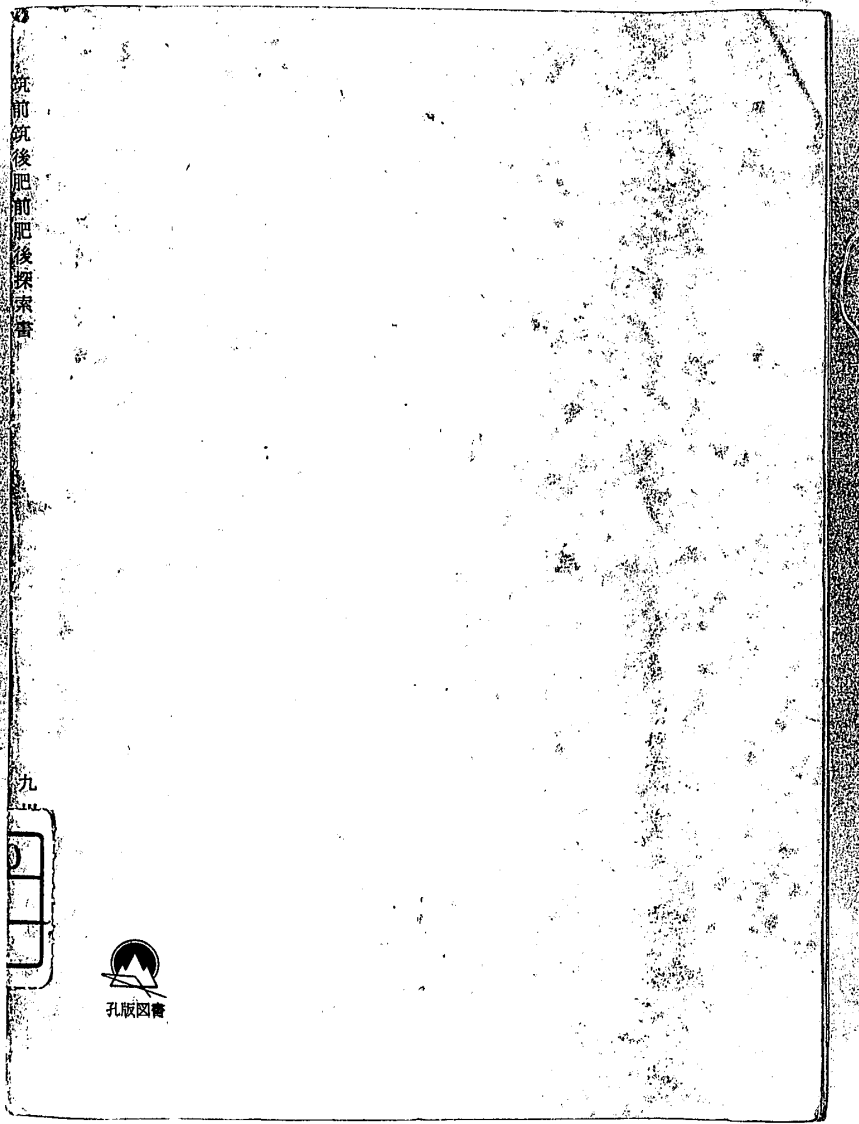
九州史料叢書

16

書探後肥前肥後筑前筑後

印刷所	九州	代表者	編纂者	昭和
福岡市	九州	九州	九州	和州
箱崎	福岡	九州	九州	三年
筑前	福岡	九州	九州	九月
川町	福岡	九州	九州	十五日
三丁目	福岡	九州	九州	非
出版日	福岡	九州	九州	売
社	福岡	九州	九州	行

九州大學圖書印



抗前流後肥肥肥後探索書

九



孔版圖書